

# 第1回 小郡市新総合体育館建設実施プラン検討委員会

## <議事録要約>

■日 時:平成 29 年 11 月 28 日(火) 15:00～

■場 所:南別館3階 会議室

■参加者:



	氏名	所属
委員	見城 俊昭	副市長
	佐藤 吉生	小郡市体育協会会長
	大津 洋一郎	総務部長
	山下 博文	教育部長
	米田 管子	小郡市スポーツ推進委員会 会長
	福田 喜吉	卓球連盟 会長
	立石 政治	剣道連盟 会長
	原竹 博泰	弓道連盟 理事
	廣田 暢昌	ジュニアスポーツ関係者 代表
	福永 昌也	中学校校長会代表
	福永 美紀	障がい者スポーツ関係者 代表
	飯田 達也	公募
	小田 あゆみ	公募
事務局	藤吉スポーツ振興課長、児玉財政課長、熊丸企画課長	
庶務	有田企画主査、檜枝管理係長、大野事業係長	



### 1. 開会

### 2. 委嘱状交付

### 3. 委員長及び副委員長の確認

設置要綱第3条の2により、委員長は見城副市長、副委員長は佐藤体育協会会長となることを確認した。

### 4. 議事

#### (1)「小郡市新体育館建設基本計画」の確認と検討事項

事務局より、「小郡市新体育館建設基本計画」概要版を元に、概要の説明と確認が行われた。

その後委員長が財政状況についての説明を加え、本検討委員会の役割を述べた後、各委員の意見の聴き取りを行った。(以下、その概要)

〈委員長〉 基本計画には「スケジュールは平成29年度に判断するものとします」となっているが、「また、社会情勢、経済情勢等を考慮し、必要に応じて計画の見直し等を行うこととします」という部分は、非常にわかりにくい。

今の体育館の現状を見れば、建て替えなければならないということについては誰からも、十分理解を得られるであろう。

しかし、小都市の現状の財政状況は大変厳しいものがある。

その状況も認識したうえで、市民から理解を得られる建設実施プランを作成しなければならない。

また、体育館建設を発端として、市民が分断されるようなことがないようにプランに。

〈A委員〉 「なるべく早く建ててくれ」というような要望があった場合、いつごろできるのか。10年後ぐらいという話なら、このような話し合いも意味がなくなるのではないか。

〈委員長〉 借金すると返済する計算も必要で、簡単には答えられない。しかし、現体育館は40年以上たっているので、10年後であれば50年もつか、ということになり無理がある。

〈B委員〉 基本計画は、非の打ちようがないものになっていると感じる。どのようなことが、検討課題になってくるのか。

〈委員長〉 この検討委員会の性格を簡単に言うと、実現可能なプランをつくろう、ということ。早くつくってほしい、ということになると、少し考えなければならない。

できるだけ早く現体育館を建て替える、ということでの実現可能なプランを、コストなどの計画も含めてつくっていく、というのが最大のテーマである。

〈C委員〉 我々は何を検討するのかなという気がする。

お金の問題が決まれば、仕方ないとか削ろうとか、そういう意見が出せるが、それが決まらない限り、この委員会の意味がないのでは。

〈委員長〉 40億をどうやってつくるかをみなさんと一緒に考えるのは難しい。

みなさんとは、近くである太宰府の体育館については見に行き、実態と建設コストと民営と、問題点なども聞きながら、新しい体育館について考えていきたい。

ここでは、できるだけ早く、あまりコストもかからない、そして自分たちが使える体育館を探っていく、どこかで落としていく、という作業が重要ではないかと思う。

〈C委員〉 国や県の補助はないのか。

〈事務局〉 補助金については、文部科学省の「環境改善交付金」、国土交通省の「社会資本整備総合交付金」、日本スポーツ振興センターがもってます、「スポーツ振興くじ」の助成金がある。補助の額は非常に少なく、1/3とか1/10とかの制度になっている。

〈C委員〉 太宰府の体育館は面積や建設費はどのくらい？

〈事務局〉 太宰府の体育館は、最初の試算は20数億、最終的には35億ぐらいかかっている。

〈委員長〉 さらにランニングコスト、毎年かかる経費は2億か1億5000万か…それが非常に重荷になっており、それが非常に課題になっている。そのへんは実際に聞いて、年間経費なども聞いて、何が問題なのかというのを明らかにしていきたい。

〈D委員〉 私はすごく違和感がある。車いすとか、目が見えない人とか、耳が聴こえない人の立場で、体育館をつくるという考えが足りないと思う。

または地震が起こった時に、体育館が避難所になる場合、みなさんパニックになられるが、放送があっても耳が聞こえない人には伝わらないので、文字の表示があった方がいい。

高齢者、子どもも体育館を使えるべきだと思うが、そういったイメージをされてつくってあるのか、疑問をもつ。障がい者も子どもも高齢者もみんな一緒に使える体育館をつくるべきではないか。

〈委員長〉 その点は十分認識しているつもりで、今求められているのはユニバーサルデザイン、障がいのある人もない人も同じように使えるということが基本にある。

体育館を避難所に使うというのは、十分考えておかなければならない課題の一つ。春日市の総合体育館は、観覧席が普通の観覧席とは違い、アリーナは公式でも、上の観覧席が全部はずせるようになっており、そこを災害の時には避難所として使える。

また、総合体育館だが、たくさん集客するという視点ではなく、スポーツをする人が中心、アリーナ中心の総合体育館になっている点も特徴。

〈D委員〉 もう一つ気になったのが幅（通路）がちょっと狭いのではないかとということと、エレベーターなどを使った時には、この40億の建設費が越してしまう可能性があるのでは。

〈委員長〉 ユニバーサルデザインには、廊下の幅とかの基準がきちんと示されており、設計の段階では加えていく。今は基本計画の段階なので、その点は少し先に置いておく。

〈E委員〉 今回の体育館は古く、年間に維持管理がすごくかかると思う。

また体育館は、一般市民は、「ただ単に運動をする人たちのための施設ではないか」というふうな認識がかなりあると思う。「災害の時に使えるんです」など、市民の方々が「そういう面もあるな」というような共感を得るような発信をしなければならない。一番厳しいのは財源だろうが、該当するような補助があると思う。他との違いを、アピールしたり、補助にのるためのノウハウを勉強したりして、財源が増やせないか。

〈委員長〉 財源の問題は我々にまかせてほしい。

太宰府市に行ってみようと言っているのは、いただけるものは全部いただく、ということをつくってきていたことがわかるんじゃないかな、と思う。

施設をこのような形で整備すると、今使っている利用料金と、今後使う利用料金との問題が出てくる。いいものをつくっていくと、利用料金にはねあがっていく。市民が使うものが、裕福な団体しか使えないような施設になっていいのか、というような問題も出てくるのではないか。

大野城市の総合体育館はサブアリーナはなく、アリーナは正式競技の規格になっていて、エアコンはついていない。年間のランニングコストは2, 3千万というところ。太宰府は確か1億5千万。利用料金は大野城市が当然安い。

太宰府ができて春日ができたなら、大野城の総合体育館に来ていた福岡県内のいろんな大会が全部逃げて行くだろうと予測していたが、全然逃げていかなかった。それはやはり料金の問題。

だから、建設コストだけの問題じゃなく、そのへん（ランニングコストや利用料金）のところも検討していかなければならない。

- 〈F 委員〉 ジュニア関係で出させていただいている。  
実際的にこの基本計画ということで、いろんな協議を経て、40億の建設費がかかるのではないかと、ということ。建設年度が5年10年延びれば、実際的な建設費もあがってくるのではないかと。こういう基本計画があるなかでは、この基本計画に載っているスペースなり施設内容で、お願いしたい。
- 〈委員長〉 今の体育館のランニングコストはどれくらいか。  
〈事務局〉 管理費ベースで千五百万円くらいとなっている。  
〈委員長〉 だから（太宰府の例から考えると、その管理費が）10倍くらいになる。毎年1億5千万の管理費を生み出すためには、料金を上げていかなければならない。料金をあげていくと使われなくなってしまう。
- 〈G 委員〉 この計画を最初に見させてもらって、他の市町村とかにある体育館でもほぼ同じ競技ができて、あまり特色というのがないのかな、と。  
収益をあげていかないと、維持が難しいと思う。  
それにはプラスアルファ何かの特色っていうのがあった方がいい。ボルダリングとかいろんな新しい競技が出てきていて、会場を探しているスポーツ団体の競技ができるスペースがあると、収益にもつながって利用者も増え、いいサイクルになるのでは。
- 〈H 委員〉 基本的なところは納得できるものができている。  
ただ、いろんなことをお金をかけて建てていくと、使う時にお金がかかってくる。若い人は使う時にお金がかかると、やっぱり使いづらい。原則は料金を抑える。  
また、子どもの体力低下が言われていることに伴って、体育館を子どもたちでも自由に使えることにすると、料金も低料金に。さらに、減免措置の適用なども利用増の可能性につながるのでは。
- 〈委員長〉 それはぜひこのなかで議論していきたい。  
自己紹介で伝えたように自分は中体連に関わっているが、春日とか太宰府、中体連は使わない。料金が高いから使えない。
- 〈H 委員〉 市民の方が使える体育館がほしい。他の自治体の住民や、お金がたくさんある団体などが使えるものではなく、市民の人が幅広く使える体育館であってほしい。
- 〈I 委員〉 私は、わいわいクラブでレッスンを担当している。  
今、現体育館を使用していて、使いにくさはある。小郡体育館があそこにあるっていうことを知らない人が、まだたくさんいる。だから、こういう総合体育館が建った時に、小郡市民みんなが集まるような施設になってもらいたいと思う。  
今の体育館は、球技をしている人しか来てないのかな、という気がしている。今までずっと予約をされている人でいっぱい、一般開放というのはあるが、なかなか自由に利用できない。子どもの体力低下というのは、私も感じているが、子どもたちが体を動かす自由さえ大人がさえぎっている気がする。じゃあ体育館に行こうって思っても体育館はいっぱい。新しい体育館は、そういう子どもたちが集まる場所であってほしい。  
また、小郡市の方は、運動しようと思っても、小郡市内で健康づくり・体力作りというような運動ができていないというのが現状。そういう場～多目的ホールでヨガとか～

を老若男女が利用ができるようなものにと、強く言いたい。

〈委員長〉 体育館の性格というものは、プロのバスケットとかバレーボールの試合ができるような体育館から、市民が中心の、気軽に使える、しかも、スポーツのきちんとした公式のルールに基づいて、練習ができる試合ができる、というものまで幅が非常にある。検討委員会は、それをどこにターゲットを絞っていくか、ということも大事なこと。市民の代表として、使う料金とか使い勝手とか、そういうことも考えていく。

〈J委員〉 私は職務の関係で、どうしてもそこにコスト面、ということにならざるを得ない。新体育館基本計画につきましては、大変いい計画であるが、少しコンパクトにできないものなのか。10万人規模の自治体を想定して、計画をつくられたのではないか。

これが叩き台というふうな形で、今後実際どういったつくり方をする、というのが課題で、もう少しコンパクトにすれば使用料も抑えられ、そういった面では、逆の意味で使い勝手がいいのでは。そういったところも、今後協議いただきたい。

〈K委員〉 基本計画については、スポーツ団体の意向を取り入れてある計画だが、確かに大きい。基本計画には運営体制でありますとか、ランニングコストとか、そういった視点は含んでないので、追加して検討していく必要がある。

〈副委員長〉 体育館建設については、早く建てないかんとという要望書等を市に出していたが、なかなか進まかった。

40年前に体育館ができた時には、活用方法が今とは全然違っていた。NHKののど自慢や、いろんなイベントに使われた。しかしスポーツも様変わりし、交通量も増えて、いろいろなイベントをするようになるに従って、駐車場が足りない、狭い、観客席がない等、当時はよかったけれども、時代とともにニーズが変わってきた。

昔は補助金がありますと、補助金にしてこれだけの広さが決まった。昔できた体育館と最近の体育館は大きさが違う。なぜかというと、補助金が決まって、そのなかでスペースが決まってくるから、試合ができない、ということもあった。今は逆に、どの試合でもできるように寸法をとって、その後つくる、という話になる。

また昔と変わっているのは、非常に車の便がよくなっている。そうすると、一般の小郡市民が集まれるような場所は土地が安い方がいい。場所は検討しないことになっているが、そういう所に体育館を建てる方がいい。

体育館自体が昔と変わって、多額のお金がかかる。それならば、補助金をできるだけ集めて、それでもできないなら、少しコンパクトにする。しかし、30年、40年、50年使うものだから、最低のものはつくらなければならない。たとえば学校で言うならば教室とか廊下とかのスペースをまず確保する。そして、後でできるものは少し後回しをする。

そして、ランニングコストはずっとかかる。だから、それも検討していきたい。

〈委員長〉 今、話されたように、ひょっとしたら段階的に、まず優先的にはこれ、次にこれ、これ、というように考えたり、運営形式も考えたりしなければならない。

事務局にたずねたいが、野球場と陸上競技場の駐車場は何台分あるのか。

〈事務局〉 約400台である。

- 〈委員長〉 野球場と陸上競技場の収容人員はどのくらいか。
- 〈事務局〉 1万3千人と1万1千人である。
- 〈委員長〉 1万3千人と1万1千人の収容人員に対して、駐車場は400台。基本計画であがっているのは500台で、観覧席が500～600人というのは、文化会館のホールとほぼ同じ。それが毎日満員というのは大変で、1年のうちに何回満員になっているか。そういうことは詰めていかなければならない。
- 種目の関係で絞りこんでいかないかん、という話があったが、たとえばアーチェリー場をもっている総合体育館っていうのはあまりない。また弓道も近的はもっているが、遠的をもっているのは福岡市だけ。
- そういうことを考えながら、委員から出たように、人口6万ぐらいを想定しながら、必要なものを優先して、できるだけ早くつくる。早くつくりたい。
- 理想像を求めていく考え方もあるが、そのことも十分置きながらも、まずは現状から言って、あの体育館をこのままずっと引きずっていくのは、小郡にとっては好ましくない。スポーツが衰退することは、小郡が元気でなくなる。逆に言うとスポーツを振興していくと、小郡が元気になる。元気になる基礎は、拠点となるものをつくりたい。
- まず第1号議案の「基本計画の確認と検討事項」ということで話してきたが、これは終わらせていただく。
- 次に、「今後の小郡市新総合体育館建設実施プラン検討委員会開催について」、提案を。

## (2) 今後の「小郡市新総合体育館建設実施プラン検討委員会」開催について

事務局より、今後の進め方について提案し、委員から出された意見も含め、下記のように確認した。

- ・ 検討委員会の開催日時は火曜の15時から行うことを基本とする。  
(内容により、時間をくりあげて開催する場合もある。)
- ・ 会場は市役所内とする。
- ・ 各会合ごとに、次回のおよその検討内容と開催時期について共有する。
- ・ はっきりとした開催日時・検討内容は遅くとも1ヵ月前には決定し、文書で連絡する。

また、見城委員長から事務局へ下記のような指示が出され、今後の見通しについて補足があった。

- ・ 太宰府市・春日市の体育館について状況を調査し、資料を作成して次回2月の会合に提出のこと。  
(総工費、どのような補助を使ったか等)
- ・ 現体育館のランニング・コスト、実際の利用者数等と太宰府・春日両市との比較ができる資料を。
- ・ 次回は上記資料を使った勉強会的な位置づけ・情報共有の場にしてはと考えている。
- ・ そのうえで3月以降に実際に太宰府市・春日市を訪問し、「喜ばれているのは何なのか」、「課題として浮かび上がったのは何なのか」、「もう一度建設をしたらどうしたいか」、「民間の指定管理はどうなのか」などについて、職員に聞き取りを行ってはどうか。できれば利用者団体～体協やスポーツ推進委員、生涯学習の団体などの話も聞ければいい。
- ・ 上記のことを基礎ベースとして、知恵を出し合い、建設実施プランをつくっていく。

## 5. その他

〈D委員〉 団体からの意見とか発言する機会というのは、次回あるのか。

〈委員長〉 基本的には所属団体の意見をまとめていくという段階では、まだない。今は基本的なワーク組みをつくろうという話なので、個人的な見解で構わないということをお願いしたい。

最後に事務局から、

- ・ 本検討委員会の会合については議事録を作成すること。
- ・ 議事録を要約したものを市のホームページに掲載するとともに、スポーツ振興課の窓口で閲覧できるようにしておくこと。

が伝えられた。

## 6. 閉会